

The 37th
Tokyo Motor Show
Passenger Cars & Motorcycles

No.13

東京モーターショーニュース
2003年10月23日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 モーターショー統括部
〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル
Publisher: Tokyo Motor Show Department, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.
Otemachi Bldg., 1-6-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004, JAPAN
TEL 03-3211-8919 FAX 03-3211-5798 WEBSITE www.tokyo-motorshow.com




第37回“新型”東京モーターショー 報道公開

お客様参加・体験型に衣替え

“お客様参加型”という新しいスタイルにイメージチェンジされた第37回東京モーターショー（乗用車・二輪車）が25日からの一般公開に先立って10月22・23日の両日、報道関係者に公開された。クルマ社会の変化に対応して、来場者により楽しんでもらう様々なイベントを開催する。またスポンサーシップ・プログラムを初めて導入するなどショー運営そのものが改革されたが、報道陣もこれらの変化に関心を寄せていた。



今回はこれまでショーを主催してきた旧自動車工業振興会との統合後、日本自動車工業会が初めて開く「乗用車・二輪車ショー」だけに「何が変わるか」に期待が寄せられていた。公開されたショーテーマ「いま、挑む心。Challenge & Change ー希望、そして確信へー」にふさわしく来場者の視点に立ち、お客様参加型で双方向的なコミュニケーションを目指したところに大きな変化がみられる。

その試みとしてこれまでの車両展示主体の見せるショーに加え、主催者側が会場内のあらゆる施設を活用。クリーンエネルギー車に同乗試乗できる環境体験ランドをはじめ、来場者が自由に参加できる様々なシンポジウム（会期中18回）、若者に人気のカロッツェリア展示、家族で

楽しめるフェスティバルパークなど、幼児や小学生、若者、女性のすべてが楽しめる多彩なイベントが用意されエンターテインメント化されていることだ。またこれまで混雑で見学が困難だった車いす利用者には10月23日午後に特別見学を実施するほか、次代ユーザーとなる小学生以下の入場無料、高校生半額も初の試みとなる。

なおスポンサーシップ・プログラムの参加企業は「オートウェーブ」「翼システム」「ソニー・コンピュータエンタテインメント」「昭和シェル石油」「モバイルキャスト」「マイクロソフト」「日本たばこ産業」、及びオフィシャルドリンクスポンサーとして「サントリー」の8社。



新型「東京モーターショー」の展示構成 グループ別共同展示に新しい試み

自動車産業の世界的アライアンスも一段落し、会場はグローバル時代にふさわしいショー風景となつて来場者を迎えてくれる。イベントホールの楽しい「カロツェリア展示」や安全性と環境をテーマにユーザーに身近な新技術を公開してくれる部品コーナーなど、会場全体が来場者の視点に立った新型モーターショーを印象づけていた。

今回の参加国・企業数は日本をはじめ世界14カ国から263社・4政府(カナダ・ドイツ・スウェーデン・アメリカ)・1団体(日本自動車部品工業会)が参加。会場規模は幕張メッセ国際展示場の西・中央・東・北ホール(1~11ホール)及びイベントホールを使用し、展示面積は4万1559平方メートルと前回(第35回)と同規模となっている。展示構成はグループ別共同展示を基本としながら、それぞれのブランドをアピールするなど、新しい試みがみられる。

出品車両の内訳は乗用車メーカー38社(国内9社・海外29社)、二輪車12社(国内4社・海外8社)、部品部門は国内170社・1団体、海外30社・4政府、それにカロツェリアが日本を含む5カ国13社から30台。

ホール別各社ブースは次のとおり。

東ホール

ここではトヨタ・ダイハツグループの一体展示のほか、ダイムラークライスラーグループとして三菱自動車、メルセデス・ベンツ、AMG、スマート、クライスラーなど。

中央ホール

日産ブースに隣接してルノー。それにフォードグループのマツダ、ボルボ、ジャガー、ランドローバー、アストンマーチン。ほかBMW、ベントレー、シトロエン、アルピナ、プジョー、ボルシェ、ロールスロイス、光岡、フォルクスワーゲン、プガッティなど。

西ホール

ホンダ。それにGMグループのスバル、スズキ、オペル、サーブほかフィアット、アウディ、ランボルギーニ、ヒュンダイ、フェラーリ、マセラティ、起亜など。

北ホール

二輪ブースのヤマハ、ホンダ、スズキ、カワサキの国産車のほか、ハーレーダビッドソン、KTM、トライアンフ、マーニ、モトグッチ、グルターガット、ドゥカティ、BMWなどの外国車。同じホールに内外部品メーカーが電装から走行関係まで多数出品している。

イベントホール

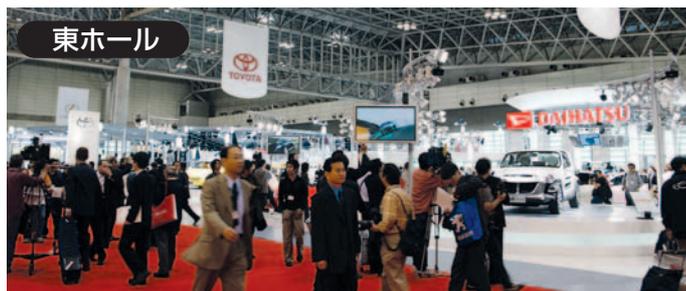
東京モーターショーでは初めての「カロツェリア展示」。国内外のオリジナルカーメーカーやチューニングメーカー13社から30台が展示される。



なお国内各メーカーの出品車両台数及び、WP:ワールドプレミア(東京モーターショーで世界初披露となる出品物)、JP:ジャパンプレミア(海外既発表だが、日本では東京モーターショーが初披露となる出品物)は下表のとおり。

メーカー名	出品台数	WP	JP
スズキ	23	4	1
ダイハツ工業	18	5	1
トヨタ自動車	31	6	2
日産自動車	21	7	1
富士重工業	16	3	1
本田技研工業	22	4	0
マツダ	24	3	3
三菱自動車工業	21	2	3
光岡自動車	6	4	0
国内乗用車9社計	182	38	12
川崎重工業	25	0	9
スズキ	53	7	6
本田技研工業	45	5	4
ヤマハ発動機	19	11	6
国内二輪車4社計	142	23	25
海外四輪・二輪計	259	13	63
カロツェリア計	30	10	8
合計	613	84	108

(50音順)





人・クルマをテーマに特別企画

お客様の体験イベントが盛りだくさん

場内で新型ショーを実感し堪能できる催しといえればお客様参加型の双方向的コミュニケーションを提供する特別企画の数々だろう。環境時代に向けたクリーンエネルギー車の同乗試乗をはじめとしたビッグ企画、来場者サービスなどが充実している。西休憩ゾーンには子どもから若者、女性たちの癒しの場となる総合エンターテインメントスペースまで設けられ、各種イベントが楽しめる。

環境体験ランド

次世代エネルギー車の燃料電池車をはじめ、ハイブリッド車、CNG車の同乗試乗会。幕張メッセに隣接する幕張海浜公園内に設けた一周約500メートルのコースで12台のクリーンエネルギー車を実際に体験できる。会期中毎日10時30分から実施、試乗を通じて環境への理解を深めてもらう。

カロツェリア展示(カーデザイン工房)

日本初の企画で内外5カ国のオリジナルカーやチューニングカーがイベントホールに勢揃いしている。日本からはOHNO CAR CRAFT、チョロキューモーターズ、慶應大学、シバックス、東京アールアンドデーのほか、ドイツ・イギリス・スイス・デンマークから参加。それぞれがユニークなクルマを公開しているが、併せて「2003年全日本学生フォーミュラ大会」上位入賞車も展示されている。また場内にはカロツェリアの雰囲気に合わせてお洒落なカフェが設けられ、若者や女性から人気を集めそうだ。

シンポジウム

ショー会期中、日・祭日を除く毎日、国際会議場や西休憩ゾーンで開催、クルマに関する様々な課題や情報を提供する。学識経験者・著名人など多彩な出席者を集め、環境・安全、デザイン、モータースポーツなどセミナー形式から一般来場者向けのフォーラム、トークショー形式までの18のテーマで構成されている。経済産業省、国土交通省、環境省、自動車技術会及び自動車税制改革フォーラムがそれぞれ主催する9テーマと、日本交通科学協議会、早稲田大学、ITS Japanの協力を得て自工会が主催する3テーマ、自工会が独自に主催する6テーマとなっている。

フェスティバルパーク

西休憩ゾーン(イベントホール西側)に交通安全啓発活動や女性、子ども向けの集客イベントを行う総合エンターテインメントスペースが設けられている。ここでは様々なパフォーマンス、ダンスメドレーやライブ・クッキングショーも体験できる「フィエスタ・マリスコス」、子ども向けの「トラフィック戦隊アンゼンジャーショー」、二輪車の交通安全を啓発する「トライアルデモンストレーション」、来場者にノミネート作品に投票してもらう「安全CMコンテスト」、音楽隊のライブ演奏や白バイのデモンストレーションを行う「千葉県警コーナー」、日本たばこ産業の協賛でバス形状でパリのオープンカフェをイメージさせる「SmōCar2(スモーカー2)」など、来場者が楽しめるイベントが用意されていて楽しい。

幼児くるま絵画展

今回は「くるまでおでかけ!~車で出かけた楽しい思い出~」「こんなくるまがあったらいいな~僕が作りたいたい車~」などをテーマに、地元千葉市の57の幼稚園から3625作品を北ホール2階エスプラナードで展示、チビッコたちがクルマを楽しむ場を提供している。



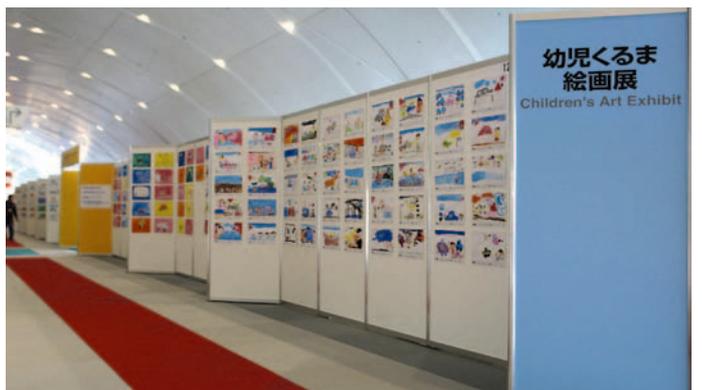
クリーンエネルギー車に同乗試乗できる「環境体験ランド」(幕張海浜公園)



カロツェリア展示(カーデザイン工房)



イベントホールに設置された「カロツェリアカフェ」



幼児くるま絵画展(北ホール2階エスプラナード)



ショーに合わせて「グローバルミーティング」開催

世界の自動車メーカー首脳 関係課題への取り組みで合意

第37回「東京モーターショー」の開催に合わせて10月22日、千葉市幕張のホテルで自動車に関する課題をテーマに第2回「グローバルミーティング」が開催され、世界の大手自動車メーカー首脳が議論、安全性、環境、先進技術などの取り組みを加速することを確認した。

グローバルミーティングは、自動車市場のグローバル化に対応、開発から販売にわたるさまざまな課題について世界の自動車メーカーが認識を共通化するとともに、取り組みの方向を明確にすることを目的に、昨年のパリモーターショー（パリサロン）に合わせて開催され、今年が2回目。

会議では、日本自動車工業会・宗国旨英会長（写真円内）が議長を務め、「ディーゼル車の普及」「先進的な技術、燃料開発、インフラ」「技術基準の国際調和」の3分野に分かれて議論が行われた。

ディーゼル車の普及では、燃費効率やCO₂排出量削減に利点があることから、新たな技術開発を推進することで、今後10年間にわたって重要な役割を演じることになることを確認、クリーンなディーゼル車の利点が規制策定者や一般大衆に広く認識されなくてはならないことなどで合意した。



また、先進的な技術や燃料、インフラの分野では、燃料電池車、水素燃料エンジンなどをはじめとするクリーンエネルギー車の普及のためのインフラ整備について、各国の政府、エネルギー産業、世界の自動車産業が共通のビジョンを持つことの重要性を強調した。

さらに技術基準の国際調和のためには、自動車産業のリーダーとして、可能な限り早期に、世界技術基準の確立に向けた促進活動が重要であるとの方向を強く支持した。

プレスセンター — 第36回に引き続きブリヂストンが協賛 —

幕張メッセ・国際会議場の2階に置かれた取材基地「プレスセンター」。228席のデスクは満席、立すいの余地もない。取材を済ませた国内外の記者がざわめきの中でキーを叩く。無線LAN、光ファイバー回線の導入により情報の処理もスムーズ。ここから「東京モーターショー開幕」のニュースが世界に向けて次々と発信されていく。

プレスセンターはブリヂストンの協賛を得て運営されており、充実した通信機器、集めたカタログの無料宅配便サービスなど取材のサポート体制は万全。またプレス招致に日本航空の協力を得るなど、いろいろな企業の支援でプレスセンターは機能している。



今日のイベント

- ★ **フィエスタ・マリスコス**
12:00～ フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）
- ★ **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
9:30～16:30 環境体験ランド（幕張海浜公園）



10月22日のプレス来場者数 **8,000人**
Attendants of October 22

ココさえ見れば、あなたも
オンデマンド印刷のエキスパート。

▼ 豊富な事例や解説などで、パブリッシングの今とこれからが理解できます。

DocuPlaza（ドキュプラザ） <http://www.docu-plaza.com/>

Color DocuTech 60

機材協力：富士ゼロックス株式会社
用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社
このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。

eCOAT105
THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX